

群桐グループ
2018年発行 環境活動報告書



Environmental report

目次

コーポレートデータ

トップメッセージ	2
会社紹介 (株)群桐産業	3
群桐エコロ(株)	5
廃棄物処理の流れ	7
施設紹介(固定床炉)	9

マネジメント

マネジメント体制	11
リスクマネジメント	12
環境組織図	13
財務データ	14

社会報告

労働環境の向上	15
地域社会との関わり	17

環境と安全

環境への主な取組	19
環境目標とその実績	21
安全対策	23
大気環境測定結果	25

その他

おわりに	26
------	----

発行時期

2018年8月(次回発行、2019年夏予定)

対象期間

本報告書に掲載した数値・データおよび内容は、2017年度(2017年6月1日～2018年5月31日)の実績を集計したものです。

対象範囲

(株)群桐産業および群桐エコロ(株)

公表数値

公表数値につきましては、端数処理により合計が一致しない部分がございます。

本報告書に関するお問い合わせ先

(株)群桐産業 広報室
TEL.0277-78-2479

本レポートは、当社ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.grr.co.jp>



群桐グループはISO14001の
認証を取得しています。



循環型社会の構築に向けて 知識と経験を活かし、今後も 社会と共に成長していきます。

群桐グループ会長 兼
群桐ホールディングス代表取締役
山口 茂

群桐グループは1984年に創業して以来、地元太田市だけでなく様々な地域の企業様が排出する産業廃棄物の処理を請け負ってきました。環境保全と循環型社会の構築を旨に業務に取り組んで早34年になります。

廃油の回収・再生販売というリサイクル業からスタートし、その後医療系廃棄物の焼却との2本柱で事業を拡大してきました。そして8年前に群桐エコロが稼働すると、廃棄物の熔融処理が加わりさらに2年前には低濃度PCB廃棄物の本格的な処理が始まったことで、強固な4本柱が当グループ最大の強みとなりました。以降、それぞれが安定した事業活動を行うことで毎年売上高を更新することができ、今日に至っております。

これにつきましては、廃棄物のリサイクルを原点とした4つの事業が互いに補完し合うことにより、良い結果に繋がったものと考えています。

今後の課題は、産業廃棄物のリサイクル処理についてこれまで培ってきた知識と経験を活かし、時代の流れを的確に捉えながら新しい提案を世の中に示し形にしておくことだと思っています。その過程において、女性活躍の推進やワークライフバランスの充実、安全管理の徹底など社員の働く環境も整えることで、一側面だけでなくあらゆる面から強化されグループが一枚岩として機能していきます。これがひいては企業の社会的責任(CSR)を果たすことにつながり、当グループの存在意義を高めると考えております。

産業廃棄物処理業界も今ではリサイクルやエコと、以前のように、以前のイメージから随分と変化してきました。私達は今後もより一層時代に適応しながら歩みを止めず、常に前進していきたいと思っております。

【群桐グループ 総売上高(2017年度)】

7,131百万円

社長メッセージ

群桐グループの中核組織としての自覚と責任を胸に 循環型社会の構築を目指します。

群桐グループにおいて、群桐産業は30有余年という最も長き経歴と実績をもつ中核を担う組織です。

2017年4月、竣工なった群桐ホールディングスビルに本社を移転し、内外共にその存在はより責任ある重要な立場となりました。

現在、営業部・総務経理部・焼却施設・収集運搬部門と廃棄物処理における総合的な活動を続ける中、特に重要な分野として「再生重油の安定的な製造販売」「低濃度PCB廃棄物の処理推進」「サーブルオール(人工砂)の安定的な販売」「藪塚工場、新田工場両施設の営業窓口業務」があります。2017年度も、この分野において全社一丸となり取り組んでまいりました。

再生重油については、この2年間ほど原油安の影響により販売単価と販売量両面で苦戦が続きましたが、今年度、原油(廃油)調達と販売量の確保にともない販売単価の回復にも顕著な実績が残せました。まだまだ再生重油を取り巻く燃料油業界は恒常的な安定とまでは至っておりませんが、引き続き情報収集と粘り強い営業を継続したいと思います。

新田工場(群馬ハイブリッドクリーンセンター)を核に今最も重要な業務が、低濃度PCB廃棄物の処理量拡大です。期限付きの処理事業であるとともに、認定施設間では全国レベルでの処理案件獲得競争もやむなく生じてきております。処理施設の特性を生かした独自の提案と情報収集に努め、安定的な稼働を続ける新田工場と共に低濃度PCB廃棄物の早期処理完了に向け更なる貢献を目指していきたくと考えます。

サーブルオールの安定販売は、群桐グループの骨子である「環境負荷の少ない完結型の処理」を確固たるものにしていくために必要不可欠の課題です。使用用途の研究や各方面への提案を推し進めていきます。

弊社のような環境保全を目的とした企業が業績を伸ばすことが、ひいては環境負荷が減少し循環型社会の構築に直結するものと信じ、なお一層の社会貢献に努めてまいります。

(株)群桐産業 代表取締役
濱屋 博



株式会社 群桐産業
群馬県太田市大原町78番地1
TEL:0277-78-2479
FAX:0277-78-5084

【主な事業内容】
●産業廃棄物収集運搬(低濃度PCB廃棄物含)
●廃油回収及び販売
●汚泥、廃油及び医療系廃棄物焼却処分

【従業員数】
90名(2018年6月現在)
【売上高】
3,737百万円(2017年度)



（株）群桐産業は群桐グループの営業窓口を兼ねており、本社ビル内に拠点を置いています。こちらではお客様からのお問合せ対応の他に経営本部によるグループの営業戦略や経営方針の決定なども行われています。



栃木県の真岡市には医療系廃棄物の回収を主とした営業所があります。こちらでは常時4台の回収車両が栃木県内の病院やクリニックを中心に営業しており、北関東東部における事業の拠点となります。



旧事務所に併設されている藪塚工場。処理物は主に廃油や廃液、医療系廃棄物など。残渣（燃え殻）は、群桐エコロなどの処理施設へ送られ再資源化されます。



藪塚工場の焼却炉ロータリーキルンは800℃以上で焼却処理を行います。その際に出る燃焼ガスは適正に無害化処理され、水蒸気となって大気へ放出されます。ダイオキシンは高温分解され、その他の有害物質は消石灰で固形化後バグフィルタで濾され、別途処理されます。



群桐産業が創業当初から継続して力を入れているのが廃油回収業務です。使用済みのエンジンオイルや機械油などを回収し、群桐エコロのリサイクル施設で再生重油を精製します。



群桐産業は通常の廃棄物の収集運搬の他に、低濃度PCB廃棄物の運搬も行っています。PCB廃棄物収集運搬業作業従事者講習を受講し必要な知識及び技能を習得した弊社ドライバーが責任を持って収集・運搬いたします。

社長メッセージ

環境マネジメントシステムを正しく機能させながら 各ステークホルダーへの責任を果たします。

2016年度の末に固定床炉の2基目が稼働を開始し、当初計画していた3炉体制での1年が過ぎました。その間、増設した施設の稼働によるエネルギー消費量、その他の様々なデータ収集及び施設稼働の効率化を図りながら、各種環境目標の達成に向けて、種々の取り組みを実施してきました。

その結果、「再生重油の販売量」「廃棄物の焼却処理量」「水資源の利用量(売上高原単位)」については目標を達成することが出来ましたが、「CO₂の排出量(売上高原単位)」が唯一、目標未達成となりました。しかし、これは今までの1号炉での活動が極めて省エネだったということをお話しており、ほとんど燃料を使わずに焼却溶融処理をしながら発電もするということの素晴らしさを再認識することとなりました。一方で、固定床炉では低濃度PCB廃棄物の安全で確実な無害化処理を遂行することが最重要事項であることから、エネルギーに関する環境目標の設定には考慮する必要があります。したがって、2018年度のCO₂排出量の目標は2017年度の実績をベースにすることとしました。

また、年度末の2月14日付けで、再生重油についてJISマーク表示制度の認証を取得しました。当社のポテンシャルを示す証として有意義であるとともに、製造者としての責任を改めて確認するものとなりました。

おしまいに、今後も当社のマネジメントシステムを正しく機能させて、PDCAを滞ることなく回し続けることで、環境活動及びサービスの向上を目指し、お客様の安心と信頼を得ながら、群桐グループのさらなる発展と社員の幸福を実現するとともに、地域社会に貢献できるよう努めて参る所存です。

(株)群桐ホールディングス 取締役社長 兼
群桐エコロ(株) 代表取締役
山口 博



群桐エコロ 株式会社

群馬県太田市新田大町600番26

TEL:0276-55-0500

FAX:0276-55-0501

【主な事業内容】

- 廃棄物焼却溶融処理及び人工砂製造販売
- 廃油の油水分離処理及び再生重油販売
- 低濃度PCB廃棄物無害化処理

【従業員数】

60名(2018年6月現在)

【売上高】

3,393百万円(2017年度)



群馬ハイブリッドクリーンセンター(群桐グループ新田工場)は、群桐エコロ(株)が管理運営する産業廃棄物処理プラントです。

総敷地面積は34,677.71㎡で、焼却溶融炉や固定床炉をはじめとする多くの処理施設があります。



プラント敷地内には事務所があり、トラックスケールでの計量や受付・事務処理などを行っています。



焼却溶融炉(ロータリーキルン)では1,300℃の温度で廃棄物を攪拌しながら溶融処理します。溶融固化された廃棄物は加工施設にて金属類を除かれた後、粒度を揃えることで人工砂「サーブルオール®」に生まれ変わります。



廃油のリサイクル施設では遠心分離機などによる油水分離処理により、再生重油が製造されます。この再生重油は施設内で燃料として消費されるほか、他社への販売も行われています。



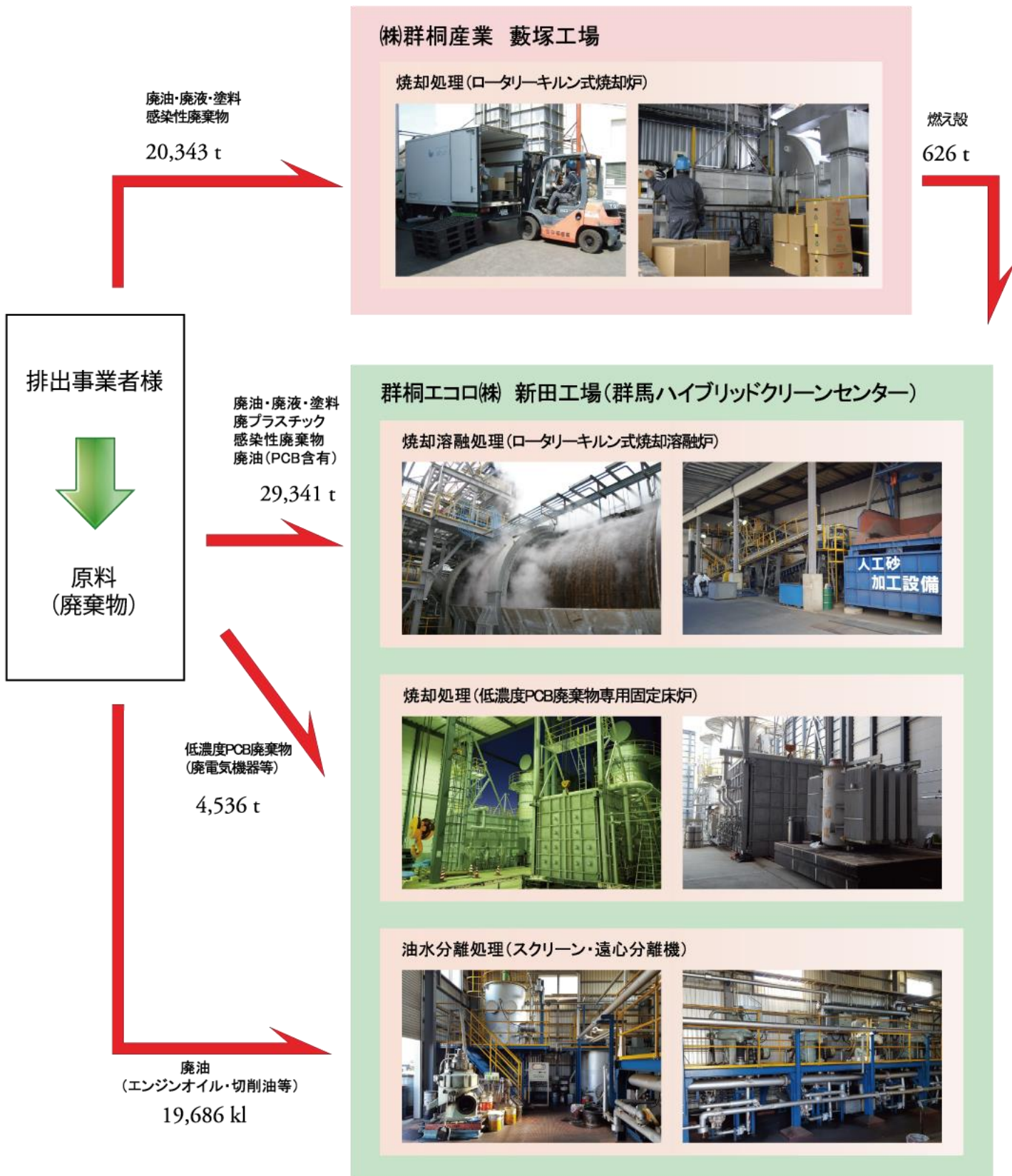
平成28年3月より稼働している低濃度PCB廃棄物処理専用大型固定床炉。現在は2系列が整備され、1ヶ月当たり平均約400tを処理しています。



今まで廃棄物の処分のみであった群桐エコロでも、一社完結の要望に応えられるよう収集運搬の許可を環境大臣の認定で取得いたしました。これにより低濃度PCB廃棄物の運搬に限り、全国どこへでも回収に向うことができます。

高度なりサイクル技術であらゆる廃棄物を再資源化

※数値の対象期間…(株)群桐産業(H29年6月～H30年5月)、
群桐エコロ(株)(H29年4月～H30年3月)



群桐グループは、お客様の多種多様な廃棄物の種類に応じて適切な処理をいたします。また、(株)群桐産業が収集運搬を行うことによりグループ内で最終処分（再資源化）までのワンストップを実現しています。



溶融固化物(人工砂「サープオール」)

売却
7,148 t

建築資材
防草敷材 等

金属くず

売却
5,045 t

再資源化

再生重油

売却
17,539 kl
自社使用
1,331 kl

石灰工場
セメント工場 等

施設紹介（低濃度PCB廃棄物専用固定床炉）

前処理棟



前処理棟では焼却処理前の前処理として、特高トランスを加熱し易いように加工したり機器の内部を確認している。
また、内部に絶縁油が残っている筐体もここで抜油を行う。

固定床炉



2基ある固定床炉では、それぞれ最大21 t/日の無害化処理が可能。

速やかに炉内全体を850°C以上に上げ、その後3時間保持。2次燃焼室は880°Cを維持する。

台貫



低濃度PCB廃棄物を積載した車両は最初にトラックスケールで計量する。

事務所横にあるスケールと事なりPCB廃棄物用の専用台貫で、ひょう量は60 t。

群桐エコロ(株)では2016年3月より低濃度PCB汚染電気機器の受入を開始いたしました。現在、グループの中心事業となっている低濃度PCB廃棄物処理の要である固定床炉をご紹介します。

受入保管庫



広さ366㎡の低濃度PCB廃棄物専用受入保管庫。

計量を終えた車両は、耐重量4.8 tの天井クレーンで運搬車両から降ろされ、処理までの間ここで保管される。

30 t フォークリフト



受入保管庫内の天井クレーンの耐重量を超える搬入物の場合、30tフォークリフトで荷降しを対応。それ以外にも重量物の移動など様々な用途に使用される。

マネジメント体制

コンプライアンス

コンプライアンス経営体制

群桐グループは、遵法意識の一層の強化充実を図り社会的信頼を確立するため、グループ全従業員の行動原則となる「群桐グループコンプライアンス基本方針」を制定するとともに、役員及び全従業員への日常行動の具体的な指針である「コンプライアンス・マニュアル」の配布や教育研修の実施等により、コンプライアンス意識の向上、徹底に努めています。

行動基準

群桐グループは、廃棄物処理事業者としての社会性および公共性を有していることから、コンプライアンスにおいて法令遵守はもちろん、社会規範も厳しい基準を持って遵守することと認識しています。

常時掲げている理念「地域、顧客との信頼関係を深め、環境と経済の共存を図りながら地球にやさしい環境を考える企業として産業の発展に寄与する」を達成し、お客様からの信用・信頼を基盤とする当グループがこれらを一層強固なものとしていくためには、職員一人ひとりが従来以上にコンプライアンスを意識し、法令やルール、社会規範に則った行動を取るとともに、その行動を積み重ねることが重要です。

監査体制

監査役監査について、各監査役は、監査役会を定期的に開催するとともに、取締役会その他の重要な会議へ出席するほか、グループ会社を含む業務および財産の状況の調査等を通じて、リスク管理をふまえた取締役の職務執行の監査を行っています。

内部監査については、内部統制システムの信頼性を確保するため、社内に内部監査部門を設置し、「内部監査規程」に基づき、適正な業務運営の維持とともに業務改善および経営の効率化をめざして実施しています。

会計監査については、当社と監査契約を締結している会計事務所が実施しています。これら監査役、内部監査部門および会計監査人は、監査計画や監査実施結果等について適宜情報交換を行うなど常に連携を図っています。

コーポレートガバナンス

基本的な考え方

群桐グループは、「地球規模で考え、足元から行動する(Think Globally Act Locally)。」企業であることを心掛けており、お客様をはじめ、お取引先、従業員、地域社会等の全てのステークホルダーから評価、信頼される企業を目指しています。

また、経営監督機能の充実と、内部統制システムの整備によるリスク管理と説明責任の遂行、及びコンプライアンス徹底のための施策を通じて、公正で透明性のある企業活動を実現することを、コーポレート・ガバナンスの基本的な方針としております。

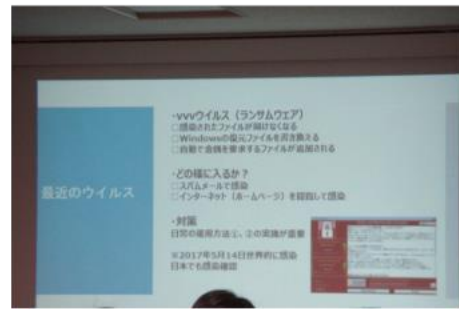
リスクマネジメント

情報セキュリティ対策

群桐グループでは、機密管理を強化するために情報管理の徹底を図っています。情報システムのセキュリティは外部の専門業者に委託。また主にソーシャルメディア利用に関する情報発信においては、従業員向けのルール(ガイドライン)を策定し、独自判断でやって良いこと・承認が必要なこと等、行動基準を策定しています。また、社内のPCの取り扱いにおいてもセキュリティソフトの導入はもちろんのこと、定期的なデータのバックアップやパスワード設定、不審なメール対応などセキュリティの強化に注力しています。

これらは社員の教育研修においても重要視され、昨年の4月から新卒・中途問わず新入社員には必ず機密管理教育を開始。さらなるセキュリティ強化と従業員の意識向上を図っています。

また、私達は業務を通じてお客様の情報を入手しているため、現場においてもお客様の情報は処理業務として必要な情報以外は 1.見ない(見せない) 2.話さない 3.持ち出さない の「情報管理の三ない運動」を実施しています。



2017年7月には日頃お世話になっているシステム・アルファ様による『情報セキュリティ対策』の教育訓練を実施。

労働安全マネジメントシステム

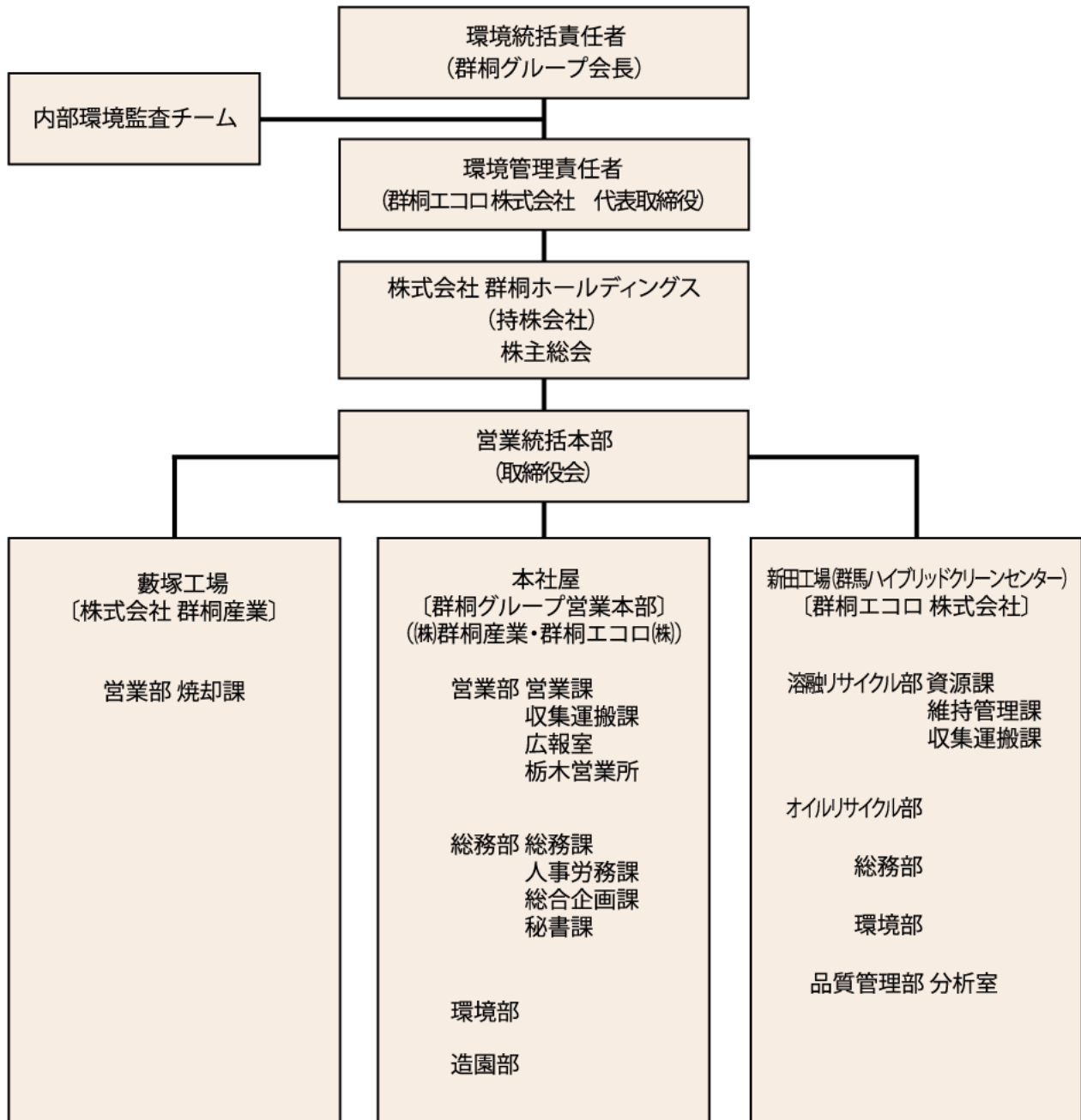
(株)群桐産業及び群桐エコロ(株)では両社それぞれに安全衛生委員会を設置し、安全対策及び安全衛生計画を立案し推進しています。安全衛生委員会では「労働無災害継続」を宣言し、経営層と従業員が一体となり重大な労働災害の防止や自然災害発生時の影響を最小限にする体制づくりなどに取り組んでいます。更に、リスクアセスメントによる設備の安全対策や災害防止対策を審議するとともに現場のパトロールを行い、ルール遵守の徹底や安全教育の実施により、安全に対する意識向上に努めています。

また、各安全衛生委員会事務局は、両社の安全会議の情報の共有に努めています。



月に一度の安全会議では、施設の担当者が一同に集まりヒヤリハットや危険な個所など話し合います。

環境組織図



群桐グループの環境組織図は図のようになっています。

グループ会長を環境総括責任者とし、群桐エコロ(株)の社長を管理責任者としています。また、各課の責任者は内部監査官としてEMS(環境マネジメントシステム)事務局と共にチームを編成し、年1回の内部監査を実施しています。EMS事務局は、環境部が主幹しており、環境管理責任者と共に環境活動における重要な役割を果たしています。

環境管理責任者は、主に法律関係や環境目的・目標・プログラム等に関わる業務の管理並びにその他業務の管理及び承認を行います。

環境総括責任者は、各種重要項目の承認並びに環境管理計画の見直しによる是正・改善を、環境活動が継続的かつ効果的に運用されるよう環境管理責任者に指示します。

財務諸表

群桐グループ売上高

株式会社 群桐産業

平成29年6月1日～平成30年5月31日 (単位:千円)

売上高	3,737,995
-----	-----------

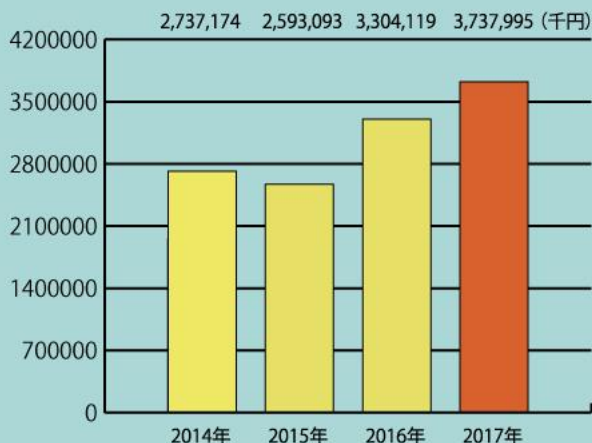
群桐エコロ 株式会社

平成29年4月1日～平成30年3月31日 (単位:千円)

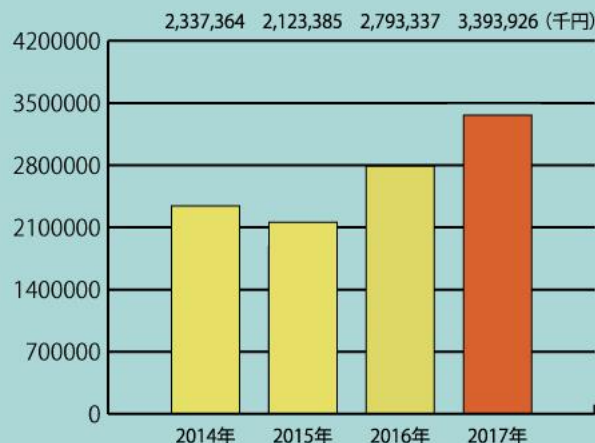
売上高	3,393,926
-----	-----------

売上高の推移

株式会社 群桐産業



群桐エコロ 株式会社



2017年度は(株)群桐産業・群桐エコロ(株)共に低濃度PCB廃棄物の処理を主軸に営業活動を行った結果、前年度の売上を大幅に上回り過去最高益を計上することとなりました。

より詳しい財務諸表は弊社ホームページより産廃情報ネットにお入りいただき、ご参照いただければ幸いです。



群馬ハイブリッドクリーンセンター(群桐エコロ(株))の低濃度PCB廃棄物処理用固定床炉(左)と専用の30tフォークリフト(右)。低濃度PCB廃棄物処理は、現在群桐グループの中核を成す事業となっています。

労働環境の向上

職場環境の整備

福利厚生・各種手当の充実

群桐グループでは、常に従業員にとって働きやすい職場環境を整えることに注力しています。2015年より導入した週休二日をはじめ、各種社会保険、育児休業、介護休業から社宅制度までさまざまです。

また各種手当も充実しており、多くの資格が対象となる資格手当の他、扶養の親まで該当する家族手当や子供への教育手当等があります。

今後は有給休暇取得の促進や各種施設利用等の面で力を入れていく予定です。



社員の健康管理

群桐グループでは、希望者は会社負担でインフルエンザの予防接種を受けることができます。

さらに産業医によるカウンセリングも実施されており、これにより社員の健康障害の予防と共に、心身の健康が保たれています。

社内資産活用セミナー

平成29年11月、しののめ信用金庫様による【資産活用・確定拠出年金セミナー】が開催されました。暮らしに密接したお金に関わるセミナーで、住宅や老後・教育などの普段ではあまり聞けないお金の話を分かりやすく解説していただきました。

社内コミュニケーション

社員研修旅行

グループ恒例の会社行事として毎年冬の時期に、(株)群桐産業と群桐エコロ(株)の全社員で参加する社員研修旅行がごございます。旅行は1泊2日の行程で、バス車内や宴会の席など普段あまり顔を合わせる事の無い両社間の社員同士の大切な交流の場となっています。



社内ゴルフコンペ

ゴルフが好きな社員が多数在籍する群桐グループでは、年に1回ゴルフコンペが開催され大いに盛り上がっています。

優勝者が次回の会場を決める方式になっていて、部署間はもとより上司や部下の垣根を越えてゴルフを楽しみます。



平成30年度群桐グループ年頭全体会議

平成30年1月12日本社屋大会議室にて、群桐グループ年頭全体会議が行われました。

今回はグループの社員総勢122名の参加となり、山口会長より年頭挨拶がありました。挨拶ではグループの現状また今後の展開が主で、その後は役員挨拶・社員全員での関の声と続き、年頭を飾るに相応しい内容となりました。



多様な人材の育成と確保

教育プログラムの充実化

企業が継続的に成長するには、人材育成と技術・技能の確実な継承が不可欠です。「仕事を通じて人材を育てる」という観点に立ち、群桐グループの組織力向上と将来を担う人材の育成に取り組んでいます。

当グループでは従業員一人ひとりを“産業廃棄物処理のプロ”として育成するために、新卒・中途を問わず新入社員の教育には特に力を入れています。また、上司が部下のOJTをきちんと指導できるよう長期的な視野で個人と向き合って仕事の管理をしています。



新卒者の定期採用

群桐グループでは常に優秀な人材の確保に力を入れています。県内外の各所で開催されている合同企業説明会には積極的に参加し、会社見学や面接も随時受付けています。

また会社独自の面接説明会も開催しており、新卒者の採用にも余念がありません。2018年4月には営業部に1名の新卒者が採用となりました。



地域社会との関わり

地域貢献活動(寄附・協賛)

第34回やぶ塚かかし祭り

(株)群桐産業の近くにある三島神社公園では毎年10月初旬から中旬にかけて、「やぶ塚かかし祭り」が開催されています。この祭りは1984年より続く太田市藪塚町の一大祭りで、2017年(第34回)は9月30日～10月9日の期間に行われました。

群桐グループは地元企業として毎年協賛をさせていただいております。



リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017ぐんま

がん征圧・がん患者支援を目的としたチャリティイベントである「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」。群馬県でも毎年ALSOKぐんまアリーナでイベントが開催され、群桐グループは社員の健康診断でいつもお世話になっている健康づくり財団を通して寄附をしています。

公益財団法人結核予防会「複十字シール運動」

肺結核を中心とした胸の病気をなくし、健康で明るい社会をつくるための運動「複十字シール運動」に対し、群桐グループは社会貢献活動の一環として、毎年寄附をさせていただいております。

地域交流

SL体験と東武ワールドスクウェア見学ツアー

群桐グループは、本社ビルの竣工を記念して平成29年8月25日に地元百石地区の育成会の皆様にSL体験と東武ワールドスクウェアを見学するバスツアーにご招待させていただきました。これは東武鉄道が8月10日にSL「大樹」の営業運転を開始することを受け、日頃お世話になっている地元の皆様に感謝の気持ちを込めて企画したものととなります。

今回は子供36名大人19名の総勢55名で、企画の打合せおよび当日の添乗は東武トップツアーズ様をお願いいたしました。

1日を通して、大人から子供まで楽しんでいただきました。



第14回ビジネス交流会

平成29年11月22日、ヤマダグリーンドーム前橋にて東和新生会(東和銀行)主催のビジネス交流会が開催されました。製造業やサービス業、食品関連小売業など様々な業種がブースを出展する中、群桐グループは群桐エコロ(株)で製造されている人工砂サーブルオール®を紹介するため、今年も出展いたしました。



彩の国ビジネスアリーナ2018

平成30年1月24・25日の2日間、埼玉県および県内主要金融機関が主催するビジネスマッチングイベント『彩の国ビジネスアリーナ2018』が開催されました。今年3回目の参加となる(株)群桐産業は、今回もブースにてサーブルオール®および低濃度PCB廃棄物処理サービスについてPRさせていただきました。



地域交流(工場見学対応 抜粋)

太田市サイエンスアカデミー、栃木県環境森林部

群桐グループでは、常に排出事業者様やお取引業者様をはじめとする色々なお客様の工場見学を受け入れています。特に新田工場ではほぼ毎日見学のお客様がお越しになっております。

太田市教育委員会主催のサイエンスアカデミーの皆様は毎年恒例となっており、子供たちに科学との触れ合いを通じて学んでもらうこの企画において、当グループの廃棄物リサイクル処理の見学は大変ご好評をいただいております。

また行政関連の団体様も多くお越しになり、産廃処理における研修の一環としてもご利用いただいております。



環境への主な取り組み

ISO更新審査

平成29年8月2日～4日の3日間、群桐グループではISO14001認証審査機関(SGSジャパン株式会社)による更新審査が実施されました。

期間中は審査員による書類審査や社員インタビュー、作業立会審査等が行われ無事に認定登録されました。

2004年版としては今回の更新で最後となり、2018年の維持審査をもって2015年版に切り替わります。



LED導入およびコンプレッサー新装

群桐エコロ(株)が管理運営する群馬ハイブリッドクリーンセンターでは、平成29年11月より施設内の全照明をLEDに切り替えました。これにより従来約10%の消エネ効果が見込まれています。

また、同時期にコンプレッサーも空冷式に交換。こちらは従来約40%の電力削減を実現いたしました。

排ガス無害化処理システム

(株)群桐産業と群桐エコロ(株)の各プラントでは、排ガスを適切に管理しています。

二次燃焼室で未燃分を分解後、急速冷却。その後消石灰による吸着・バグフィルタでのろ過を経た後、大気に放出されます。

尚、排ガスは通常の基準値よりもさらに厳しい自社基準を設け、数値を下回るよう常に気を配っています。

水使用量の削減

群桐グループの焼却施設では、焼却炉や排ガスの冷却に雨水を利用しています。

特に群馬ハイブリッドクリーンセンターでは、機器の冷却やボイラにおいて水の循環利用をはじめとする効率的な利用に取り組み、水使用量の削減に努めています。



社内緑化

群桐グループでは社屋やプラント敷地内の緑化に特に力を入れており、至るところに様々な植物が植栽されています。

特に今年から造園専門の部署を立ち上げ、スタッフを増員したことにより年間を通して常に一定の景観を維持しています。



エコドライブ

(株)群桐産業では、約70台もの大型車両を保有しており、お客様の元に廃棄物を回収に行く際に使用されます。その際に、より効率的に業務が遂行できるよう徹底した運行管理により無駄のないルート回収をしています。

余分な排気ガス排出の抑制の他、搭乗ドライバーには安全運転および環境に配慮したエコドライブを推奨しています。



太陽光発電

太田市では太陽光発電の推進を掲げており、群桐グループもそれに倣って様々な場所で太陽光発電を行っています。

(株)群桐産業では焼却プラントの倉庫棟及び廃棄物専用保管庫の屋根に、群桐エコロ(株)では事務所と倉庫の屋根にそれぞれソーラーパネルが設置されています。

太田市では年間を通して日照時間が多く、太陽の恵みを豊富に享受できます。



施設の超省エネ運転

群馬ハイブリッドクリーンセンターの焼却溶融施設では、廃棄物を処理する際の熱エネルギーを回収・廃熱ボイラで蒸気を発生させ、発電に利用しています(サーマルリサイクル)。

この発電量は、1時間あたり平均約830kw(年間5,976,000kw。一般家庭約1,300世帯分の使用量)となり、CO2排出量が余熱利用と併せて年間約2,000 t 削減されました。

また焼却炉を動かす燃料となる重油も工場内で製造された再生重油を使用しており、超省エネ運転を実現しています。



環境目標とその実績

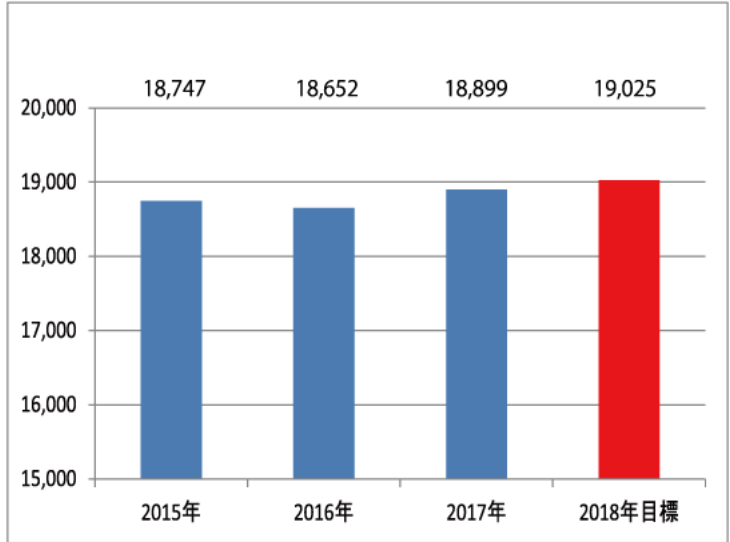
①再生重油販売量

「循環型社会及び資源の有効活用に配慮した製品の提供」として廃油の燃料化を推進しています。これにより、新たな化石燃料の消費を抑制し、省資源に寄与します。

2017年度は、18,838KLの目標値に対して18,899KLとなり、プラス61KLで達成率は100.3%となりました。

自社の固定床炉での消費量が増加している中で、販売量を増やすことができたことは非常に高く評価できます。原料となる廃油の回収については昨年に引き続き効率良く実施できたこと、新規顧客も継続して獲得できていることなど、関係部門の努力の成果が表れています。リサイクル可能な廃油の発生量は年々減少することが予想されますが、来年度も少しだけ目標値を高く設定し、あらゆる努力を継続していきたいと思えます。

15-17年 再生重油販売量 (KL)



②CO₂排出量削減

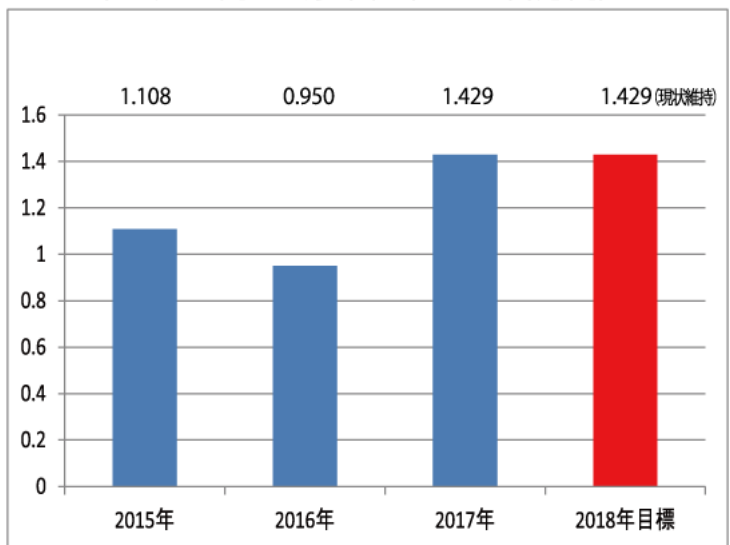
「地球温暖化(気候変動)防止活動」として、売上高CO₂原単位排出量の削減に努めています。

2017年度は、0.871t-CO₂の目標値に対して、1.429t-CO₂となり、目標を達成することができませんでした。

要因としては、固定床炉の増設に伴うエネルギーの消費として特に再生重油の使用量が見込みよりも多かったことによります。売上高の増加で補うことができなかったことになりませんが、その一方で焼却溶融施設が省エネに関して特に優れていることを再確認することができました。低濃度PCB廃棄物を無害化処理する専用固定床炉については、主に金属に付着している

PCBを高温で確実に処理する為、どうしても燃料が必要となります。そのことを踏まえて来年度の目標値は現状維持としましたが、可能な省エネの取り組みを実施していきたいと思えます。

15-17年 売上高CO₂原単位 (t-CO₂/百万円)

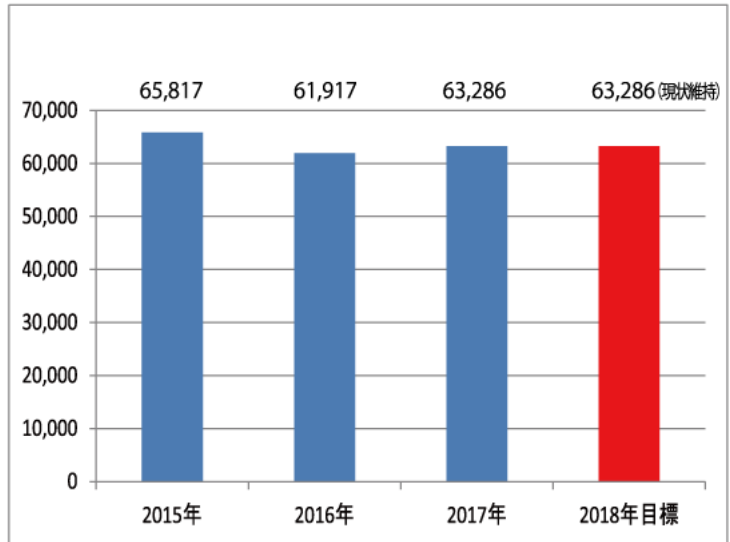


③ 廃棄物焼却量

循環型社会を目指す事業活動として、受け入れた廃棄物の焼却処理後の燃え殻を溶融処理し、または廃棄物を直接溶融処理して、溶融固化物を生産し、これを加工して建設資材(人工砂)と金属資源をそれぞれ再利用することで、埋立処分を無くす取り組みを推進しています。したがって当グループでの廃棄物の焼却溶融処理は循環型社会の構築に寄与します。

2017年度は、62,016トンの目標値に対して63,286トンとなり、プラス1,270トンで達成率は102%となりました。受け入れる廃棄物の高カロリー化により処理量が減少する中で、低濃度PCB廃棄物の受入処理量が順調に増えた結果となりました。低濃度PCB廃棄物の処理受託量は変動要素が多いので、来年度の目標値は現状維持としました。

15-17年 廃棄物焼却量(t)



④ 水の使用量削減

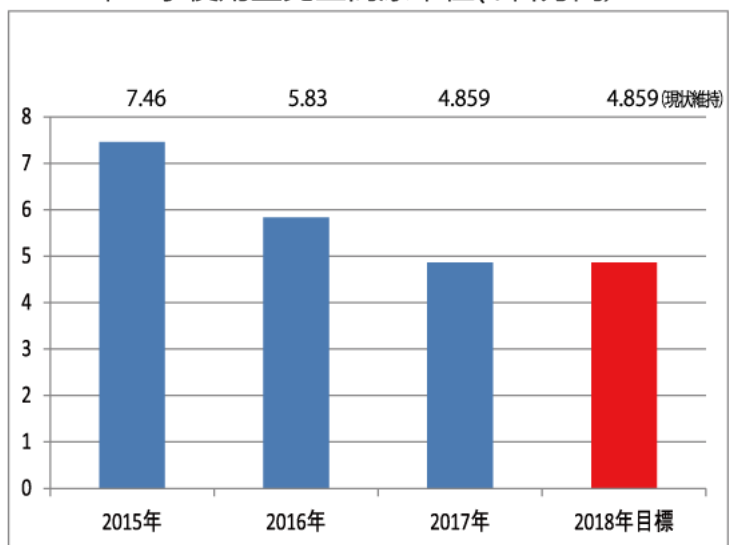
エネルギーの効率的な利用(省エネ)として、売上高原単位で水(上水)の使用量の削減に努めています。

2017年度は、5.405t/百万円の目標値に対して4.859t/百万円となり、達成率は111%となりました。

工場施設では、雨水、地下水、上水の順に優先使用しており、事業拡大によって増加した売上高に対する上水の使用量は削減することができました。また、地下水の使用量も売上高原単位では減少しています。

来年度の目標としては、低濃度PCB廃棄物の売上高の変動要素が多いことから現状維持としましたが、事業に必要な水の使用量を適切に管理するとともに節水の取り組みを継続していきます。

15-17年 水使用量売上高原単位(t/百万円)



安全対策について

事故を起こさないための指導・設備

OJTによる安全指導

可燃物をはじめとする危険物を多く取り扱う弊社プラントでは、新人や経験が浅いスタッフへの現場でのOJTによる安全指導が徹底されています。

特に大型の特高トランスなどの搬入や処理に携わる群桐エコロ(株)の固定床炉を担当するスタッフは、特に慎重な作業を要求される為常日頃から安全指導は不可欠となります。



5SおよびKY活動の徹底

群桐グループのプラントスタッフは常に5S活動(整理・整頓・清潔・清掃・躰)を意識して業務に臨んでいます。

また、危険予知活動(KY活動)も積極的に取り入れており、日々の業務に起こり得る危険を予め予測し共有することで安全に配慮しています。これらは製造業やサービス業における基本的な活動ですが、徹底することにより業務の効率化や職場の安全性向上などに効果を発揮します。



構内セキュリティ強化

群桐グループでは、お客様から企業情報の塊ともいえる廃棄物をお預かりしている為、特に構内セキュリティに力を入れています。

常時26台の防犯カメラで構内を監視しており、また従業員が少なくなる夜間は警備員を配置し、巡回しています。

加えて情報保護の観点から工場見学の際の写真撮影に制限をかけさせていただく等、お客様にもご協力をいただいております。



事故の発生・拡大防止の教育・訓練

避難誘導および消火訓練

群桐グループ各社では年に1回、有事に備え避難誘導および消火訓練を実施しています。

消火器や消火栓の設置個所の確認や避難経路の確認を行い、災害時における適切な判断と行動を身に着けます。

社屋移転後初となる今回は群桐ビルで行われ、消火器の使用方法について(株)増田コーポレーション様から説明をして頂きました。



油流出対応訓練

群桐エコロ(株)のプラントでは、毎年油の流出事故に備えての対応訓練を実施しています。タンク配管からの流出やドラム缶の横転などを想定して、スタッフ一人ひとりが適切な処置がとれるよう訓練を行います。

訓練の後は参加者全員でミーティングを行い、緊急時対応手順表や連絡票等を見直して作成しています。



安全教育・教育訓練

従業員のヒューマンエラー防止の観点から群桐グループでは、毎月1回の安全教育および教育訓練を行っています。

また、5月31日を『群桐グループ防災の日』として制定しており、毎年近い日にちを選定して太田市消防による協力のもと、火災事故防止に関する内容を中心とした安全教育講習を開催しています。



大気環境測定結果

群桐グループでは、周辺環境への影響を常に把握するため、ダイオキシン類やばい煙等の測定を行い、その結果をホームページで公開しています。

◆大気環境測定結果(直近値)

1. ダイオキシン類

対象施設:株式会社 群桐産業 焼却施設

資料採取日:2017.11.7 証明書発行日:2017.12.8

項目	測定結果	基準値	自主基準
排ガス	0.25 ng-TEQ/m ³ N	5 ng-TEQ/m ³ N	4.0 ng/TEQ/m ³ N
焼却灰	0.05 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g
飛灰(ばいじん)	0.17 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g

対象施設:群桐エコロ株式会社 焼却溶融施設

資料採取日:2018.6.14 証明書発行日:2018.8.10

項目	測定結果	基準値	自主基準
排ガス	0.0076 ng-TEQ/m ³ N	0.1 ng-TEQ/m ³ N	0.1 ng/TEQ/m ³ N
焼却灰(溶融固化物)	0.00000069 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g
飛灰(ばいじん)	1.1 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-REQ/g

2. ばい煙(ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素)

対象施設:株式会社 群桐産業 焼却施設

項目	測定結果		基準値	自主基準
	資料採取日:2017.11.7 計量証明発行日:2017.11.21	資料採取日:2018.5.2 計量証明発行日:2018.5.23		
ばいじん濃度	0.001 g/m ³	0.003 g/m ³	0.15 g/m ³	0.12 g/m ³
硫黄酸化物量(K値)	0.17 m ³ /h	0.30 m ³ /h	8.0 m ³ /h	6.4 m ³ /h
窒素酸化物換算濃度	39 ppm	59 ppm	250 ppm	200 ppm
塩化水素換算濃度	92 mg/m ³	160 mg/m ³	700 mg/m ³	560 mg/m ³

対象施設:群桐エコロ株式会社 焼却溶融施設

項目	測定結果		基準値	自主基準
	資料採取日:2018.4.13 計量証明発行日:2018.5.9	資料採取日:2018.6.14 計量証明発行日:2018.6.28		
ばいじん濃度	0.002 g/m ³	0.001 g/m ³	0.04 g/m ³	0.02 g/m ³
硫黄酸化物量(K値)	0.18 m ³ /h未満	0.22 m ³ /h未満	17.5 m ³ /h	6.0 m ³ /h
窒素酸化物換算濃度	36 ppm	93 ppm	250 ppm	150 ppm
塩化水素換算濃度	35 mg/m ³ 未満	6.8 mg/m ³	700 mg/m ³	150 mg/m ³

編集方針・後記

本レポートは、群桐グループに関係する全てのステークホルダーの皆様へ、当グループ全体の環境保全に向けた活動、ならびに社会に配慮した活動について深く理解していただき、より一層の信頼をいただくことを目的に編集いたしました。

報告にあたっては、ステークホルダーの皆様にお伝えしたい事項を重点的に取り上げることで、当グループの活動を理解しやすい紙面づくりに努めました。

本レポートは「経営」「社会」「環境」の3つの側面に特化して形成されています。群桐グループのその他の活動・取り組みにつきましては、弊社ホームページをご参照頂ければ幸いです。

群桐グループは、産業廃棄物処理業者としてこれからも社会に貢献し続けて行くことを目指します。また、常に新しい試みを模索し、より環境に優しい処理方法を追求していく所存でございます。

株式会社 群桐産業 広報室 家富 和之



株式会社 群桐産業

〒379-2304 群馬県太田市大原町78番1
TEL:0277-78-2479 FAX:0277-78-5084
URL <http://www.grr.co.jp>



群桐エコロ 株式会社

〒370-0351 群馬県太田市新田大町600番26
TEL:0276-55-0500 FAX:0276-55-0501
URL <http://www.grr.co.jp/ecologista/>